

第11回「ことば」フォーラム  
＜第2部＞ 第1会場

ことば探検・ことば発見

2002年8月28日(水)  
熊本市国際交流会館 6階ホール

八間川 隆彦(八代市立第五中学校)

市立第五中学校の生徒

コメンテーター 山田 尚子(牛深市立深海中学校)

コメンテーター 丹生 裕一(熊本大学大学院)

後援:熊本県教育委員会 熊本市教育委員会

共催: NHK熊本放送局

独立行政法人 国立国語研究所

## ことばビデオ『ことば探検・ことば発見』を活用した

### 小学校・中学校の総合的な学習

(配布資料：p. 1～2)

#### <ことばビデオ上映>

相澤正夫（司会） ……長かったかもしれませんが、どんなところに注目していただけたか、非常に私としては興味があるんですけども。実はこのビデオをみて、自分たちの活動に生かしたいということで、八代市立第五中学校の皆さんが、今日来てくださっています。これから壇の上に上がっていただいて、今よくいうプレゼンテーションですね、発表の練習を積んできたそうですので、発表していただきます。どうぞ、壇の上に上がってきてください。総合的な学習には、発表という段階があります。まさに今日、中学校の皆さんが、今までやって来たことの、中間発表ということで、プレゼンテーションしていただきたいと思います。御紹介します。八間川隆彦校長先生に、最初に簡単に概要を説明していただいて、生徒さんが交代で発表いたします。ではよろしく願いいたします。

八間川 御紹介いただきました、八代市立第五中学校の八間川です。「ことば探検・ことば発見」のビデオを利用した実践例を、簡単に申し上げたいと思います。私の実践では、大きく二つの点で活用させていただいております。第1点は、総合的な学習の時間に取り組む、教師の研修に利用したということです。総合的な学習の時間には、教科書とか教材というのは指定がございません。したがって学校が独自に開発をするということになります。その開発をする職員と、どんな学習活動をさせて、その指導をどのようにしたらよいかという、この問題はそれぞれに創造しなければなりません。その点から、「ことば探検・ことば発見」ビデオは、この課題に有効に働いてくれたようでございます。職員研修で視聴したおかげで、総合的な学習の時間を実践指導するヒントをうまくとらえることができたようでございます。第2点は、生徒が取り組む探求活動や、問題解決の手段や、手だて・方法を気付かせるのに、利用しました。このことについては、これから山口先生の指導のもとに、8名の生徒が調査研究をしている言葉に関する中間発表があります。この発表に当たっては、国語研の吉岡先生にも温かい御指導を頂いたところでございます。学校で、教科以外の選択、教科や総合的な学習の時間で大切にしなければならないことが、私には二つあると考えております。一つは、生徒が自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、判断し、問題解決する能力を育てることが一つあると。次のもう一つは、学び方やものの考え方を身につけ、探求活動に取り組み、自分の興味関心を深めたり、自分の生き方を考えさせること。この二つが選択教科や総合的な学習の時間にあるんだろうと考えております。「ことば探検・ことば発見」ビデオは、生徒の学習段階や活動に応じて、視聴させれば、生徒は取り組むテーマに応じた探求活動や、問題解決をする手段とか方法というのに気付くようでございます。この第2番目のこと

について、子供たちが中間発表で今から行いますので、どうぞお聞きください。お世話になります。

『ことば探検・ことば発見』を活用したことばに関する調査研究 中間報告  
八千代市立第五中学校 3年生 (配布資料：p. 3～9)

**生徒** 今から言葉に関する調査研究の発表を始めます。気を付け。礼。まず最初に自分たちの住んでいる八代市と通っている八代五中の紹介をします。

**生徒** 追記紹介。八代市について。私たちの住んでいる八代市は、人口 11 万人の熊本第 2 の都市です。東部の九州山地から球磨川が流れ、その河口に開けた町です。西部は干拓によって広げられ、農業が盛んな地域です。私たちの通っている五中は、球磨川の南岸にあり、高田校区と呼ばれています。有名な物に、細川家の御用窯であった、高田焼き、徳川幕府にも献上されたという高田ミカンがあります。最近は交通網が整備され、国道 3 号線や 219 号線に加え、南九州自動車道も開通しました。周囲は田畑が多く、晩白柚やトマトの生産が盛んです。五中について。私たちの学校は、全校生徒 322 名、「考える生徒、豊かな生徒、たくましい生徒」を校訓として、日々勉強や運動に頑張っています。部活動も盛んで、今年の中体連でも、県大会や九州大会に参加した部もあります。調査までの経緯。私たちは選択教科が社会科で、調査研究コースに入っています。ここでは地理や歴史に関するテーマを自分たちで設定し、学習をしています。私たちはテーマを設定するに当たり、ふだんの生活の中で使う言葉や、地元に残る独特な言葉に着目し、調査研究をしていくことにしました。話し合っていく中で、言葉にもいろいろなものがあることに気付き、いくつかのグループに分かれて学習を進めていくことにしました。では実際に調査研究したことを報告してもらいます。最初は身体の部位チームです。

**生徒(湯野・寺田)** 私のお婆ちゃんは、よく「へきが痛か」といいます。小さい頃は、「へき」って何のことだろう、「へき」ってどこのことをいっているのだろうと、疑問に思っていました。最近それが肩の辺りのことをいっていることが分かってきました。そこで私たちは、身体の部位を八代の方言ではどのように言うかを調べてみることにしました。お婆ちゃんや親、先生方に聞き取りをしたり、本で調べたりしたところ、たくさんの方がいました。「へき」の他にも、ほっぺたのことを「びんた」、舌のことを「べろ」、頭のことを「ごら」、あごのことを「あぎ」、髪の毛のことを「かんげ」といったりすることが分かりました。私たちもよく使う言い方もありましたが、余り耳慣れない言い方も知ることができました。しかし 30 代、40 代ぐらいの方々は、たくさんの方の言葉を知っておられました。なぜそのように呼ぶようになったかは、いくつか予想してみましたが、詳しく検証することはできませんでした。それぞれの身体の部位の言い方と意味、よく使うかどうかは、お手元の資料にまとめておきましたので、ご覧ください。使い方としては、例えば、「びんたばくらすぞ」と言ったりします。これは親

から時々言われていました。しかし最近はいいい子にしているので、余り言われません。他に「べろばやけどした」といったりします。これは茶碗蒸しなど、熱い物を食べたりしたときに言ったりします。これ以外にも体育の授業で走っているときに、「横っ腹んつつた」とかは私たちもよく言います。給食を食べた後の午後や、水を飲みすぎたときに多いようです。調査してみても気付きは、今まで標準語と思って使っていたものがあったり、八代に住んでいながら、意外に知らない体の部位の言い方がたくさんありました。私たちは今回、調査をしたので、たくさんの言い方を知ることができましたが、ひょっとすると、このまま忘れ去られる言葉もあったかも知れないと思いました。そうなれば、年代によって使う言葉が違い、年齢が離れると、コミュニケーションがとりにくくなるおそれがあります。このようにお互いの会話が減ったりすれば、合う回数も自然と減っていきます。同じ地域や家に住みながら、触れあいや交流が少なくなることも考えられます。そこで私たちはお爺ちゃん、お婆ちゃんと話していて、分からない言葉などがあつたら調べてみたいと思います。そしてたくさんコミュニケーションがとれるようになりたいです。次は接頭語チームです。

**生徒（山崎・松本）** 私たちは頭につける言葉や語尾の言い方について調べました。よくテレビの地方番組などでインタビューしている場面があります。そんなとき地元の人が方言で話されているのを聞いていると、面白いなあと思うときがあります。特に他の全国放送の番組を見た後などは、変な感じがします。こんなことから、何となく方言に興味を持ちました。何が違うのだろうと考えていくと、「つつこける」とか「くるけん」など、「こける」や「くる」という標準語に、何か言葉が付け足してあるということが分かりました。そこで、会話の中で使う「つつこける」の「つつ」とは何なのか、どういう意味なのか、調査していくことにしました。調査方法は、国語の先生に聞いたり、「やっちろ弁」という八代の方言が載っている本や、必携古語辞典などを使いました。初め、インタビューをしたときは、余りたくさんはないのかなと思っていましたが、「つつこける」や「くるけん」以外にも、「ひんのむ」や「ぬさらん」など、調べていくと、たくさんの言い方があることが分かりました。しかし何故こんな言葉を付けるようになったのか、という疑問が出てきました。そこでこのような頭につける言葉や、語尾に付ける言葉がなかったら、どうなるか、友達と会話をしながらシュミレーションしてみました。すると、何か会話が堅苦しくなったり、会話がなかなか弾みませんでした。恐らく、これらの言葉は、自分の気持ちをもっとリアルに伝えたり、話を大袈裟おおげさにして、面白くしたり、雰囲気盛り上げる役目があることに気がきました。この言葉を使うことで、親しみが感じられたり、相手とコミュニケーションをとりやすくなるようです。しかし、本当にこれだけの理由なのかなと思い、国語の授業で助動詞を習っていたことを思いだし、語尾の言い方を文法的に調べてみることにしました。すると興味深いことが分かってきました。これは資料に載っていますので、ご覧ください。調べていくと、付

け足しの言葉と思っていた言い方が、実は「しなければならぬ」という義務の言葉を「せにゃんぱん」, 「何なんだろうか」という疑問の言葉を「どか」など、本来の言葉を短縮してあるものもありました。また「るる」「げな」などのように、古語がそのまま残っているものもありました。単におもしろおかしくするためだと思っていた言葉が、本当は文法的に必要であったり、古語が残っていたりと、ちゃんとした意味があることが分かりました。何気なく使っている方言にも、深い理由があったとは。次は大鞆名所（おぎやめいしょ）チームです。

**生徒（貞永・村並）** 私たちの学校の運動会では、大鞆名所という民謡で団体演技をします。この民謡は八代平野を干拓するとき歌われていたと、体育の先生に聞きました。では、初めのところだけ、歌ってみます。「アー、名所名所と大鞆が名所、名所ナ、大鞆、名所にゃ水がない」しかし、歌っている歌詞の意味がよく分かりませんでした。そこで、これは方言かなと思い、私たちはこの「大鞆名所」について調べてみようと思いました。「大鞆名所」の歌詞は資料に載せてありますので、ご覧ください。私たちはインターネットで調べたり、担当の先生に聞いたりしましたが、詳しくは分かりませんでした。そんなとき、八代郡鏡町に詳しい方がいらっしゃるということを知り、連絡をとって、お聞きすることができました。そこで分かったことは、天草の松島町、阿村から八代の干拓地に出稼ぎに来た人たちによって歌われたことや、作業の仕方を歌詞に入れ、労働の効率化を図るために歌われていたことなどが分かりました。重い<sup>てんびん</sup>天秤棒を担いだり、夏の暑い日や冬の寒い日に行う重労働で、お互いを慰め合ったり、愚痴をこぼしながら、自然に歌われたそうです。「よいながよいなが、こらしよいしよい、こらしよい」は、よいよい、よっこいしょ、のような意味だと思われます。しかし、四番からは「お菊」や「だいば」という人の名前が出てきます。これはきつい仕事をしながら、愚痴をこぼしていたところ、現場監督の「だいばどん」と出稼ぎに来ていた「お菊さん」とのうわさ話が持ち上がったそうです。そこで皆は、愚痴をこぼすより、恋の話のほうが楽しいので、このような歌詞が付け加えられたそうです。「子もおる、妻もおる」は、「だいばどん」のこと、「出合いは井樋のそで」は、冷やかしている様子なのかも知れません。しかしこの「だいばどん」と「お菊さん」の話は、「大鞆名所」の中心ではなく、「大鞆名所」はあくまでも、辛い仕事をお互いに慰め合うものだそうです。次に私たちは農作業のときに使う言葉はないかと調べてみました。校区の農家の方を訪ねたり、方言をよく使う先生に聞いたりしました。ここでは興味深いものに、「こびる」や「さなぼり」というのがありました。「こびる」はおやつ<sup>おやつ</sup>の時間にしよう、という意味で「さなぼり」は休日という意味だそうです。この他にも休憩という意味の「よけ」などもありました。そういえば、お婆ちゃんの家<sup>お婆ちゃんの家</sup>に茶摘みや田植えなどの手伝いに行ったときに、「たばこまんすっぱい」「たばこまんもってけ」と言われることに気付きました。「たばこまん」とはおやつ<sup>おやつ</sup>のことです。まだ知らないこともたくさんあるので、これからも

調査を続けていきたいと思います。最後はスポーツのかけ声チームです。

**生徒** (清水・竹本) 僕たちはサッカー部に所属しています。サッカーをしていると、普段は言わない言葉やかけ声を使います。たとえば「マーク」「クリア」「ターン」などです。僕たちはそんな言葉やかけ声には、どんなものがあるか、どんな意味があるかを調べてみました。他の部活に入っている同級生や、それぞれの部活の顧問の先生にインタビューしたりしました。その他、スポーツ関係の本や、スポーツにはたくさん英語が使われているので、英和辞典で調べたりもしました。まずサッカーの「マーク」は印という意味で、相手に自由にプレーさせないように、ディフェンスにつくということです。「クリア」は片付けるという意味で、攻められていた悪い流れを変えるために、遠くへ蹴り出すということです。「ターン」は回るという意味で、パスを出した瞬間、パスをもらった味方に敵がいないので、すぐに回って前へ攻めろということを伝えるときに使います。この「ターン」に対して、「マノン」という言葉があります。これは敵が居るので気を付けろというときに使います。しかしそもそもどういう単語で、どういう意味なのかは分かりませんでした。そこでいろいろと予想しながら調べていくと、どうやら「マン」「オン」のことではないかと気付きました。「マン」は人、「オン」は近くにいるということで、「マン」「オン」は敵が近くに居るぞ、気を付けてプレーしろという意味ではないかと分かりました。では実際の場面を映像で見てください。(映像) 敵が来ているので「マノン」とパスを出す人が教えます。ではもう一度見ていただきます。(映像) この他にもバレーや野球で同じように、英語の単語を使っている場合があります。しかしなぜこのような言葉やかけ声を使うようになったのかという疑問を持ちました。自分たちが練習や試合をしている場面を考えたり、先生方に聞いていたりしたところ、次のようなことが分かりました。実際ゲーム中は、皆で勝利を目指すために、やるべきことを確認したり、お互いに集中し合う必要があります。しかしゲーム中は余り長い言葉で話をしている時間がありません。そこでできるだけ短い言葉で伝えたいことを簡潔に表すために、このような言葉やかけ声を使うようになったのではないかと思います。今まで監督やコーチからよく「声を出せ」と言われていましたが、本当はなぜかけ声が必要なのかは、よく分かりませんでした。今回の調査・研究でかけ声の意味と必要性に気付くことが出来ました。スポーツのゲーム中は限られた時間の中で自分たちの気持ちを伝えることがいかに大切なのかを知ることができました。

**生徒** 感想。私たちは、ふだん生活の中で使う言葉や地元に残る独特な言葉に着目して、この調査・研究を行ってきました。その中でたくさんの方に気付かされました。まず、何気なく使っている言葉には、いろんな意味や使う理由があること、また単に方言と思っていた言葉が、実は古語や公家の言葉であったこと。何となく、恥ずかしいと思っていた方言には、親しみを感じさせたり、暖かい感じを与えてくれたりする事も分かりました。また言葉はその場に応じて、長くしたり短くしたりすることで、その役割を果た

すよう、工夫があることも分かりました。今回の学習で、毎日使っている言葉の広がりや深まりを、身近に感じることができました。選択教科の学習は、2学期以降も続いていくので、もっともっといろんなことを調べてみたいです。

生徒 これで、言葉に関する調査研究の発表を終わります。気を付け。礼。

### 【質疑応答・ディスカッション】

相澤 どうもありがとうございました。改めて言葉というのは、多面体なんだなということ、思い知らされる、いい発表だったと思います。どうもありがとうございました。この後の時間を使いまして、ただ今の発表も踏まえて、このビデオ、あるいはビデオを使っただけの総合的な学習、関連したことをいろいろ話し合ってみたいと思うんですけども、その前に実はこのビデオが完成した段階で、国語研究所のほうでモニター会議というのを開きました。そのとき、お招きした方の中に、実はただ今の八間川校長先生も入っておられたわけですが、このあとお二人の方に、先生にコメントを頂きます。そのお二人の先生も実はモニター会議の参加者であった方です。まず、お一人目は、今の発表が中学校の生徒さんということで、中学校の先生の立場から、コメントを頂きたいと思います。コメントをしてくださるのは、牛深市立深海中学校の山田尚子先生です。よろしくお願いします。

山田 こんにちは。牛深市立の深海中学校の山田と申します。今日はこのような大きな会場にお招きいただいて、とても恐縮なんですけれども、コメンテーターとして、少し、感想を交えてのお話をさせていただきたいと思います。この会場にお招きいただいたのは、吉岡先生からお話があったんですけども、一昨年の3月31日、東京のほうで、このビデオの制作モニター会議というのがありまして、そちらのほうに20代の教師としてのコメントが欲しいということでお話を頂いて、参加する機会を与えていただきました。それを縁として今日もお招きをいただきました。そのときは小学校の教員をしておりましたので、小学校の立場からということでお話をしていたんですけども、今回転勤で中学校になりまして、今度はまた中学校の立場からということでしたけれども、まだ実践経験が少ないですので、全然参考にならないと思います。でも私の学校でも総合的な学習とか、いろいろ取り組みをしておりますので、そちらのお話も交えてさせていただきたいと思います。まず同じ中学校ということで、八代第五中学校の皆さんの発表を見せていただきました。とても子供たちというのはいろんな可能性を持っているな、いろんな芽を持っているなというのが、まず第1の感想です。言葉という方言というのが、最初に思い当たると思うんですけども、スポーツのかけ声とか、接頭語とか、何か難しいことまでよく調べているなと思いました。私も祖母がいるんですけども、コミュニケーションがなかなかとれません。祖母は、阿蘇の西原村に住んでるんですけど、時々遊びに行くと、そのときは何を言っているか余り分からず、「うんうん」「はいは

い」とか言って、調子を合わせています。家に帰って「あのときお婆ちゃん、なんて言うた」とって、こそっと母親に聞いたりして「こういうことをいうたたい」とか。また何か、お婆ちゃんなのに、丁寧語を使ってしまうという現状があります。「そうです」とか、「なんなん？」って聞かれたときに、「わかりました」とか。お婆ちゃんに、壁をつくっているのかなと。でも、今回中学校の皆さんの発表を聞いて、もっと分かり合う必要があるのかなと。もっと自分から進んで「こういう言葉、なんという意味だったと？」とか聞いて、コミュニケーションをはかっていく必要があるんだと感じました。牛深に4月から来まして、牛深にも方言があります。初め驚いたのが、「みぞか」とか「よっこいしょ」という方言です。天草のほうでは、一般的に使われている言葉だと思うんですが、「みぞか」というのは、かわいらしい。平安時代から使われている言葉だそうです。かわいらしい、かわいいという意味だそうですけれども、その言葉を初めて聞いたときには、「なんのこと？」って。あと、教頭先生が「よっこいしょ」とか言うんですけれども、「よっこいしょ」というのは、座るときの掛け声かなと思ってました。でも本当は、「あ～あ」とか、そういう気持で使われていたそうです。そういう言葉一つ一つが「なんだろう」と思うんですけれども、分かんると「ああ」と。そこでお互いのコミュニケーションが少しずつとれていくのかなと。中学校での取り組みとして深海中学校では、方言のことを、総合的な学習の時間に調べています。「なんなんせにゃん」という意味で「なんなんばん」とか使うんですけれども、お婆ちゃんたちはもっとよくいろんな方言を使われています。そういう方言を取り上げて、ちょっとした台本を作って劇にしようというふうに、今取り組んでいるところです。総合的な学習で活用するのもいいんですけれども、私は中学校で理科の教員をしていますので、今回ビデオで、気象というところがあったと思います。ちょうど中学校の教材でも2年生で10月頃から11月にかけてですけれども、気象のところを勉強します。そこでこのビデオをちょっと見せてみたいなと思っています。気象の言葉一つ一つというのは、何気なく毎日聞いていることだと思います。でも考えるきっかけを与えるというのが、このビデオじゃないかなと思っています。一つ、雨という言葉にもいろんな言葉があって、広がりがあるんだと。ビデオの中でも子供たちが、もっと調べてみようというふうにやってみましたけれども、そういけばいいんですけれども、「なるほどね」と納得できれば、このビデオの意味があるんじゃないかなと思います。この前、別の講演会の中で、教科書を読むだけが教師じゃない。教師というのは驚き屋でもあり、学び屋でもあると先生が言われていました。私もまだまだ教育実践は少ないので、難しいことは言えないんですけれども、子供たちの驚きとともに、自分も「ああ、こういうことだったんだ」と一緒に学んでいけたらと思っています。ビデオの活用としては、ビデオ教材の最後のほうに、詩がありましたけれども、私も小学校にいたときに、6年生を受け持っていて、詩の単元のところでこのビデオを見せました。部分的にその詩のところだけ見せてしまっ

たので、感受性豊かな子は、すぐ「なんか面白いな」というふうにして見ていましたけれども、ぱっとそこだけ見せると、余り伝わらないというときもありますので、そこらへんは導入の仕方とかも考えながら、ビデオもうまく使っていったらと思っています。このビデオは、総合的な学習のためにつくられたということでしたけれども、総合的な学習の時間に限らず、いろんな場面で使えると思います。私もいろいろな先生方のお話とか、他の方々のお話などを聞けたらと思います。今後の教育活動のためにも、いろいろお話を聞かせていただけたらと思います。すいません、何か、話がうまくできませんでしたが、終わりたいと思います。ありがとうございました。

**相澤** どうもありがとうございました。先生にもお役に立ったということで、我々は本望でございます。それでは、次に今度は小学校の先生の立場から、コメントを頂きたいと思えます。現在熊本大学の大学院で研究中でいらっしゃいますが、ホーム校は別にお持ちの、丹生裕一先生にコメントを頂きます。よろしく願います。ちょっと準備に時間がかかります。お待ちください。

**丹生** こんにちは。ここで話すことになります。ビデオを操作するものですから。私は丹生裕一と申します。ただ今熊本大学の大学院の方で、杉教授のもとで国語科教育について研究をしております、学生です。前年度までは、益城町の広安西小学校のほうで勤務しておりました。縁あって、このビデオ「ことば探検・ことば発見」のモニター会議に参加させていただきまして、それから関わっております。今日、話をすることになりましたが、現場におりませんものですから、さてどうしたものかということで、前任校の広安西小学校にお願いして、ちょっとこういう話をするけどって言ったら、今ここに来てますけど、井上伸円先生が、このビデオを活用した授業の映像があるということでしたので、余りうまく撮れてないんですけど、それを是非使わせてくれということで、小学校ではビデオを活用した授業をどうするのかということ、ビデオをお見せしながらお話をしたいと思います。八代五中の皆さんは、「ことば探検・ことば発見」のビデオを総合的に取り入れられて、見事に言葉を探検し、言葉を発見していらっしゃいました。さすが中学生ですから、いろんな要素をとりこんで、自分たちの学習に生かしていた。ところが小学生で同じようなことができるだろうか。特に井上先生が担任していらっしゃる3年生、総合的な学習を今年初めてやるという年代に、どのようにこのビデオを学習に生かしていくのかということ、私が考えますに、大事なポイントは、「総合的に」とらえるのがまだ段階的に難しいので、やっぱり部分的に、焦点化して、しかも具体的に指導してやることではないかというふうに思えます。部分的に、具体的に指導してやることは、小学校の低学年、中学年の段階では大事ではないかなと考えます。では、井上先生は、どのように指導したのでしょうか。見てみたいと思います。

<授業ビデオ上映>……

**丹生** 何を見せたかということ、子供たちが「ことばビデオ」の中で、先ほどの気象庁に調

べに行くために、アポをとるために電話をしていましたね。女の子が電話をしていました。井上先生は電話のシーンをビデオで子供たちに見せられたわけです。では、先へ行きます。

<ビデオ>井上 違うことしてましたよね。お礼ちゃんと言えてました？

生徒 はい。

井上 自分の名前言ってました？

生徒 はい。

井上 どこどこ小学校って言ってましたっけ？

生徒 はい。

井上 言ってましたよね。言葉遣いよかったですか？

生徒 はい。

井上 どこどこ小学校の、簡単な自己紹介って言ってましたね。

生徒 はい。

井上 それではもう一つ、先生がしなかったことをやっていました。

電話でメモをしながら聞くということですね。

生徒 それともう一つ。

井上 はい。

生徒 えっと、何時に行くか。

井上 ここでは、伺いますっていう、何時に来ていいでしょうかという約束をする電話でもありましたよね。だからちゃんと約束してましたよね。はいどうぞ。

生徒 それはどこでやってますか。

井上 ちゃんとお尋ねも上手にしてみましたね。では今から実際君たちに練習をしてもらいたいと思います。

生徒 ええ〜っ。

丹生 ビデオの中で井上先生が、ビデオを見てどんなところに気を付けて話せばいいのかというポイントを焦点化されてましたね。部分的に取り上げて、具体的に、じゃあどう話せばいいのかということを確認されてました。次はいよいよ活動に移るわけですが、活動をするときのルールをこれから示されています。これ実は授業参観の場面にして、井上先生の指導テクニックの一つに、参観者を上手に使って授業をするというのがありますね、お母さん方と子供たちに、今からやる活動のルールを説明する部分です。

<ビデオ>井上 もしもし、環境衛生課をお願いしますとか、総務課をお願いします、からスタートしてください。そしたらお家の人、お願いします。しばらくお待ちください、でも、分かりましたかとかいう返事をしてもらってよろしいでしょうか。そしたらお家の人をお願いします。環境衛生課に

なれる方。はいつて言って、しばらくしてから。

生徒 ちょっと難しいのやめてよ。

井上 さあお家の人に言ってもらいましょう。いいですか、ちょっと練習します。もしもし、総務課お願いします。

生徒 もしもし、総務課お願いします。

井上 はい、総務課ですって答えてくれます。それからもう、あなたたちが言うんですよ。考えてくださいよ。自分の名前を言う。それから大事なものは、今日聞きたいのは何かというと、どんな仕事をしているんですかっていうことを聞いてください。

生徒 はい。

井上 いいですか。そうしたらお家の人がかきと答えてくれるでしょう。確認ができたところで、いよいよ活動に移ります。つまりお家の人を相手にして、電話のやりとりをするというゲームですね。

丹生 お母さん方にメモ用紙が配られたところですね。もうすぐ始まります。子供たちが移動し始めました。もうちょっとかな、はい。

<ビデオ>……

丹生 はい。というような形で、これから総合的な学習の時間を始めるという前の、練習といますか、そういうコミュニケーションをとるための、具体的な指導の時間にビデオ活用をされたという実践の例の一つでした。こういうふうにして、ビデオというのは、大変優れた教材になり得るのではないかというふうに、考えています。以上で終わります。失礼しました。

相澤 どうもありがとうございました。こういう使い方もあるんだなということで、ちょっとびっくりしました。それでは、時間がもう少しありますので、できましたら少しディスカッションをしたいと思うんですが、実はこのビデオの制作に当たった、私もその一員ですが、制作委員長を、国語研究所の吉岡が務めておりますので、ちょっと壇に上がってください。もしよろしければ、何か質問とか御意見があれば、ここで頂戴ちやうだいしたいと思います。あるいは、今日のいろんな御発表についてのコメントでも結構です。何でも結構です。ごさいませんでしょうか。じゃあちょっと口火を切る意味で、吉岡さん何か今日の発表、それからその後のコメントを受けて感じたことがあれば、お願いできませんか。

吉岡 私は先ほどの八代第五中学校の生徒の皆さんの発表の素晴らしさに、ちょっと感動しております。むしろ中学生の皆さんが、この私どもが作ったビデオの、いろいろヒントをうまくとらえていらっしゃると思います。ここがヒントになって、こういうものを、例えば「元気のいい日本語」というところをヒントにして、サッカーチームのお元気な

二人、だったろうと思います。そういうところが分かるので、簡単に、もう勉強のことはいいので、率直にこのビデオの出来ということで、見て面白かったとか、余り面白くなかったけど役に立ったとか、そんなふうな率直な感想を、サッカーチームの元気なお二人に、ちょっと聞いてみたいという気がします。

相澤 どうでしょうか。

生徒（男子） とても役に立ちました。

相澤 君ね、そういうのを外交辞令っていうんだよ。

吉岡 もう一人……

相澤 ……とても教育が行き届いております。

吉岡 私、先ほど八間川校長先生の御紹介にもありましたように、八代第五中学校に行きまして、お会いしたお二人なんです。彼のほうからスポーツの言葉をやりますという申し出を受けまして、本当に嬉しい限りでしたね。でも今日は本当に素晴らしい発表をありがとうございました。これは外交辞令ではありません。

相澤 本音といいます。

吉岡 本音です。

相澤 私も一つだけ、やっぱり「マノン」というのが非常に面白いなと思いました。というのは、二つの単語ですよ。「マン」「オン」ですよ。ところがくっつくと「マノン」と一緒になるわけですよ。この単語というのを含む、もっと長いくっつく言い方というのがありまして、例えば「エレベーターの中に居る男の人」という、そういう英語をひとつの単語でいうと、「ア・マン・オン・アン・エレベーター」となるんですね。ところがこれを一気に発音するとどうなると思いますか。「ア・マン・ノン・ナン・エレベーター」となるんですよ。わかりますか。「ア・マン・ノン・ナン・エレベーター」全部くっつきます。「マノン」と同じような現象が、全部起こるのね。英語というのは非常に、音声と音声単語の間でくっ付きやすい、そういう言葉です。何か、そういう方向に、つまり英語の先生にも使っていただける部分が今度出てくるのかなとか、非常に発展的に使えるんじゃないかなというふうに、「マノン」を見たときに思いました。非常に細かいコメントですけど、そんなことを感じました。会場の皆さん、いかがでしょうか。このビデオの出来についてですね、委員長が非常に気にしております。いかがでしょうか。

吉岡 先生方、是非先生方から、外交辞令ではない率直な御批判のお言葉を頂きたいと思って参りました。よろしくお願ひします。あ、そうそうそう、さっき授業をしていただいた先生方。

相澤 よろしいでしょうか、授業をしてくださった先生。一番上にいらっしゃる。じゃ走って上がります。どうも。間接的にお世話になりました。

井上 このビデオを総合的な学習に活かさないかということだったんですが、ビデオ全体

を最初に見せていただいて、最初に思ったのは、日本語というのは本当に身近な言葉で、方言とか子供たちが興味を持って調べ、活動していく、ものすごい素材というか、本当に、子供たちがどんどん意欲を持って追求していくような言葉、日本語ってそういうものなんだなということを感じたのです。ですが、小学校の総合的な学習の中で、言葉を調べていくということが、なかなか小学校の中では、まだ意識にないということで、授業で使うときには、じゃあどんな言葉でアポイントをとっていこうとか、というところから、3年生では入っていったんですね。中学校の、さっき素晴らしい実践を見たんですけども、最初見たときの印象は、そういうのを小学校でも、もっと総合的な学習の視野を広げて、取り組んでいくきっかけとなるビデオだったなということ。出来のよしあしよりも、私からすれば、私自身言葉を見直すことができた、小学校での総合的な学習をこれからどんなふうに進めていくかという意味でも、いろんな示唆を与えてくれた、とても素晴らしいビデオだったと思いました。

**相澤** どうもありがとうございました。

**井上** ありがとうございます。

**相澤** 本当によろしいでしょうか。じゃあお願いします。

**参加者1** 私は小学校の教員をしております。ビデオを見せていただきまして非常に勉強になりました。私たちがそういう教材としてのビデオとして見たいのは、一つは具体的な場面で、具体的にどのようにしているのかという流れを、物語の中で使っていくという、そういう言葉がどういうふうに使われていくのかということを知りたいというのがあります。もう一つは、絞って、技術的なことも含めて、実際どうしていくのかということが、焦点化されて表されているというのが、二つ目として欲しいと思います。今日のビデオを見せていただいて、初めのほう、実際に自分たちが課題を持ってどのように動いて行って、アポイントをどう取っていくのかという、その流れがあって、こういうふうに進めていくのか、そしてこういうふう言葉を知っていくのか、そういうふう学習を進めていくのかということ、流れにのって勉強していったということが、非常に参考になりました。もう一つ、焦点化するという意味では、アポイントの取り方を、具体的にどのようにしていくのかということが分かって、非常によかった。だから小学校の井上先生の実践では、あそこの部分だけを切り取ってするということがあったんだと思います。更に欲を言うならば、今日は質問して非常に流暢<sup>りゅうちょう</sup>に答えていただけただけの例でしたけれども、中には余りばつと答えてくださらない方がおる。それでも、どう聞いていけば相手が答えてくれるのかということが、いくつかの場面で聞き方によって答え方が変わってくるんだぞと分かってくるとか、アポイントを取る、あるいはインタビューしていく、それを長い言葉で言われたのを、短くまとめていくとか、そういうふうなことが焦点化されたビデオがあるのもっといいなと思いました。非常に勉強になりました。ありがとうございました。

**相澤** ありがとうございます。貴重な御意見で、これから私どもは年に1本ビデオ作品を作っていくことを計画しております。今いただいた御意見は、やっぱりあの場面はうまくいきすぎてますよね、やっぱり。うまくいかないこともあるんだという、そういううまくいかない場面でのコミュニケーションをどうするかということを、我々国語研究所ではコミュニケーションを研究してますので、その辺で得た知見を、具体的に分かりやすい形で、これから提供する課題としていきたいと思います。本当に貴重な御意見ありがとうございます。それで、そういうご意見を、今日お渡しした概要に、電話番号、FAX番号、メールアドレスが書いてありますので、どんどんお寄せいただきたいと思っています。お願いします。はい、あちらの方。

**参加者2** 私も小学校の教諭をしておりますが、実はこのビデオを市教委のほうからお借りいたしまして、見せていただきました。私は3年生を担当しております、子供に、ただ見せるという使い方をしてしまいまして、子供は「難しかった」という感想が多かったんですね。5年生のほうでは、総合的な学習の発表をする子供たちに、一つのモデルとしてこういうふうな発表もあるんだということで、部分的に見せたわけですね。そうしますと、総合的な学習の発表する内容だけではなくて、声の発し方とか、相手を意識した話し方、それから姿勢ですね。あと、受け答えの仕方、そういうところまで、国語の内容まで踏み込んで学習ができて、大変参考になってありがたく思っているところです。

**相澤** 辛口のところも、ちょっと。

**参加者2** 私が3年生にみせた……そこが大いに反省するところで、やはりきちんとした指導目的を持って使わなければいけないんだなという、自分自身への辛口の反省でございます。

**相澤** はい、ありがとうございます。他はいかがでしょうか。はい。じゃあ最後の方にさせていただきます。

**参加者3** 八代五中の皆さんのプレゼンテーションの感想なんですけど、私が中学生のときに選択国語という授業で、ラジオドラマをつくったんですね。それで、アナウンサーの人に来てもらって、滑舌の勉強をさせてもらって、それでラジオドラマを作りました。3年生のときには演劇の勉強をして、一つの劇をつくりあげました。それで、今日プレゼンテーションを聞いていて、すごくよかったんですけど、たまに聞き取れない言葉とかがあって、せっかくのプレゼンテーションがわからないところがあって。下の資料を見ながら聞いていたんですけど、それでえっと思って顔を上げて、やっとその前に出ている資料で、何て言っているのかが分かったりとかしたので、そういうところを勉強していくと、もっといいものに仕上がると思います。

**相澤** どうもありがとうございます。だんだん皆さんの口がほぐれてきたところなんです、このまま続けるわけにも参りませんが、一応ここで御意見を伺うことを終わりに

させていただきます。最後に、国立国語研究所所長の甲斐睦朗より、総括的なコメントと、御挨拶を申し上げます。

**甲斐** 最初に私に与えられていた時間が、10数分だったものですから、それで予定をたてました。ちょっと5時をオーバーするかもしれませんが、できるだけはしょって、しかし申し上げるべきことは申し上げるということで、コメンテーターとしての役と、最後の御挨拶をしたいと思っております。ご存じのように、新しい学習指導要領は、いろいろな主要な教科の時間が削減されました。国語科も小学校から中学3年生まで、各学年1時間ずつ削減されました。私も指導要領の小学校の主査をしておりましたので、大変困って、いろいろとお願いしたんですけれども、総合的な学習の時間があるから、そこで頑張れということでありました。今日はその中学校のほうの、総合的な学習の時間の、とりわけとびきり上等の実践というのを、八代市第五中学校の方が展開してくださいました。これは大変にありがたいと思います。なぜありがたいかというと、二つの意味があります。一つは、国語科というのは、大きく二つの能力がありまして、一つは伝え合う力というのがあります。今までは作文というの、ただ書くということだったわけですが、新しい学習指導要領では、誰に書くのか、何のために書くのかという相手意識、目的意識を用意しております。そういう実用的な言語能力というのを、つけようというのが、国語科の一つの役割であります。それを今日一つ果たしていると。もう一つは、総合的な学習の時間というのは、テーマは理科的なものであっても、社会科的なものであっても、どういう内容であっても、よいわけではありますが、今日はそれをさらに日本語に関する、とりわけ地元の、自分たちの生活に関わる言葉というのを、追求しておられました。この2点において、今日の第五中学校の取り組みというのは、私は本当に感心したのであります。私も30代からほぼ30年間、すべての都道府県の学校の指導に参っておりますが、熊本はこれまでに5回ほど伺っております。ですから会場にもちらほら知っている方もいるわけですが、非常に教育熱心な県であって、深みもあるわけです。その中でも今日は非常によい発表がありました。先ほど聞き取れなかったというお話がありましたけれども、これもアナウンサーだったらまだしも、なかなか人前でお話するというのは難しい。これはまた別の訓練が必要であるというように、私は思っております。それから今日のビデオでありますけれども、先ほど委員長の吉岡のいろいろな苦労話もあったと思うわけですが、これからもこういう形での活用というのができる、非常にありがたいと思うんです。これは、今日は全部で40何分間、通しましたけれども、実際は3分1場面だけを子供と一緒に見て、その3分ほどの場면을1時間に延ばして問題をいろいろ考えていけるとよいというように思ってるわけでありまして。なかなか学校教育のほうは、視聴覚機器の活用というのがうまくありません。ご存じのように、視聴覚機器では、例えばテープレコーダーにしてもビデオにしましても、カメラにしましても、日本は世界に冠たる地位を持っているわけでありまして、ところが学校教育の中に

おける活用というのが、なかなかできておりません。今日は、第五中学校の方々がビデオをきっかけに、自ら地元の言葉を調べるといった実践をされていたということで、私は大変感心しました。また、今日の中学生の方々が使った言葉は、見事に共通語でありました。10年前に沖縄の首里中学校で授業を見たことがあるんですが、全沖縄の研究授業ですが、やはり全員が共通語を使っておりまして、方言を見ることができませんでした。是非友達と話すときは、あるいは家庭で話すときは、方言を大事にということを期待したいと思っています。それから先ほどコメンテーターの方が、小学校の実践の取り組みの最初のところを話してくれました。これは手紙にしても、電話にしても、やっぱり先ほど申したように、相手に伝える、依頼する、感謝を述べるという、そういう国語科の指導目標の中にある、伝え合うということが、眼目に置かれているわけです。そこのところを、非常によく実践されている、そういうふうには感心したのであります。今日は、国立国語研究所とNHK熊本放送局の主催になる「ことば」フォーラム in 熊本、何か、日本の文字が4種類入っているんですね。平仮名と片仮名とローマ字と漢字。inは抵抗あるな、と一方では思いながら、しかし「於」という漢字は常用漢字にないし、やっぱりこれが一番軽やかなのかなというふうに思いながら、こうやって午後の1時から4時間の間、みなさんと見てまいりました。最後には会場からも非常に熱心な発言が出始めました。これを期に、更に一層、国立国語研究所との縁を持っていただければと思います。国語研究所の是非ホームページをのぞいていただきたいと思います。ホームページには様々なことを提案したりお伝えしたり、また皆さんからの御意見を頂いたり、ということがありますので、いろいろと縁を作っていけたらというように思っている次第であります。以上をもって挨拶とします。

**相澤** お時間がまいりました。それでは、以上をもちまして、「ことば」フォーラム in 熊本第2部の第1会場をお開きにしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。最後に、水色のアンケート用紙が入っているかと思います。是非御記入の上、出口のところの回収箱に入れていただくようお願いいたします。

<第2部(1)終了>